

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含みとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(―は上方修正、_は下方修正)

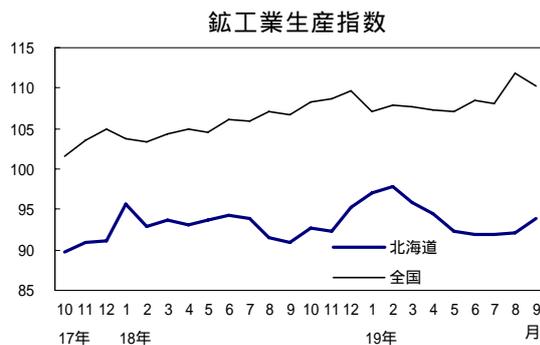
前回調査からの主要変更点

	前回(平成19年8月)	今回(平成19年11月)
景況判断	景気は持ち直しの動きが緩やかになっている	景気は持ち直しの動きに足踏みがみられる
観光	堅調に推移	おおむね横ばい
個人消費	おおむね横ばい	やや弱含み
住宅建設	大幅に増加	大幅に減少

1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産及び水産業の水揚量は前年を上回っている。
生乳生産は、牛乳等向けは減少したが、乳製品向けが増加したため、総量では958,634tと前年比0.1%増となった。水産業(主要8港)は、さんまが前年を下回ったが、するめいか及びほっけの水揚量が前年を上回っている。

(2) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
食料品・たばこは、気温の低かった7月に清涼飲料水の荷動きが悪かったことから減少している。パルプ・紙は、カタログ・パンフレット向けや、電気製品のプリント配線盤素材向けの需要好調により増加している。電気機械は、7月に新モデル携帯電話向けが好調だったことから、増加している。窯業・土石は、公共工事関連の需要低迷により受注が低調だったため、減少している。金属製品は、道外からの公共工事受注や、携帯電話の基地局建設により増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
食料品・たばこ	26.5	3.0	2.9	4.5	2.1
パルプ・紙	12.1	2.4	3.7	0.4	3.5
電気機械	9.5	2.5	7.0	6.0	4.6
窯業・土石	9.0	0.0	10.8	12.9	6.4
金属製品	9.0	16.2	6.9	5.2	27.8
鉱工業	100.0	4.1	0.2	1.5	4.4

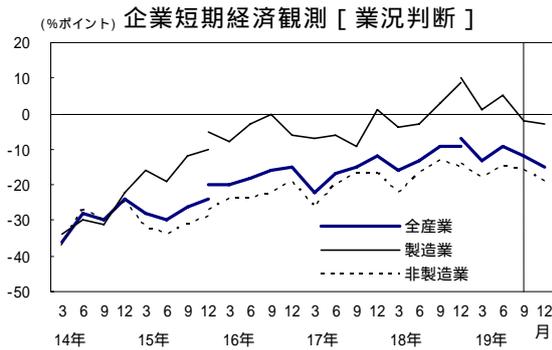
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7~9月期は速報値。

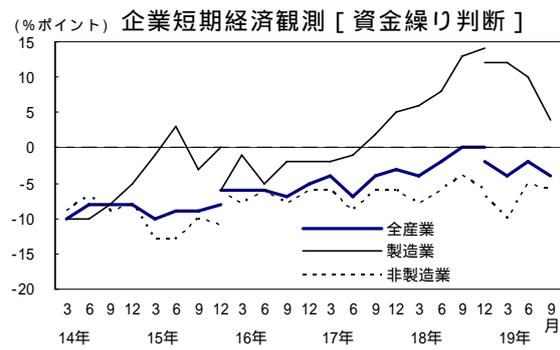
(備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成19年9月の北海道は速報値。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

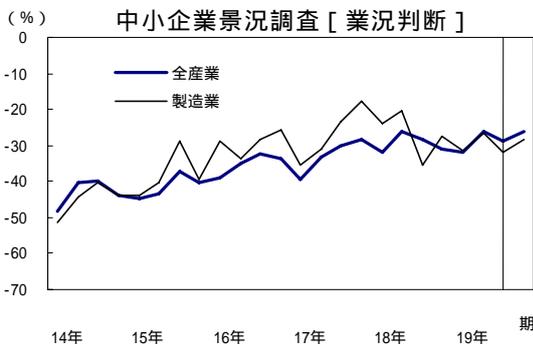
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年12月は予測。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

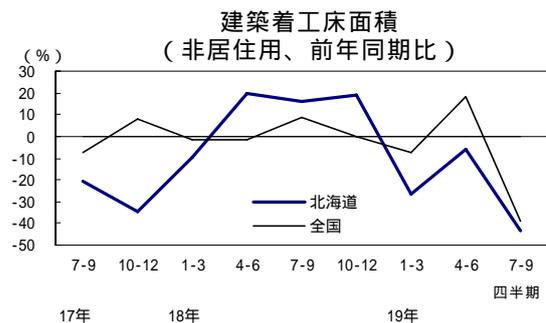
「ここにきて客先からの価格低下要求が強くなってきている。ここ数か月間感じなかったデフレ感を再度感じるようになってきた(通信業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多かった。

(4) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

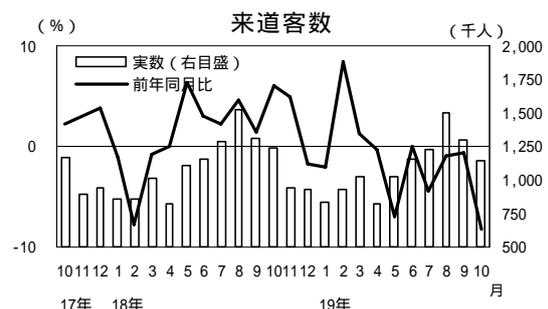
	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	9.3	11.3(0.7)
製造業	20.0	28.7(0.7)
非製造業	3.2	3.1(0.8)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光はおおむね横ばいとなっている。

来道客数は、前年の航空機会社の新規参入や経営統合等に伴う運賃引き下げ効果が一巡し、一服感がみられる。東京・大阪方面からの来道者数は引き続き堅調だが、地方圏からの来道者数が低調なことから、全体でも減少している。



(備考)北海道観光連盟調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含みとなっている。

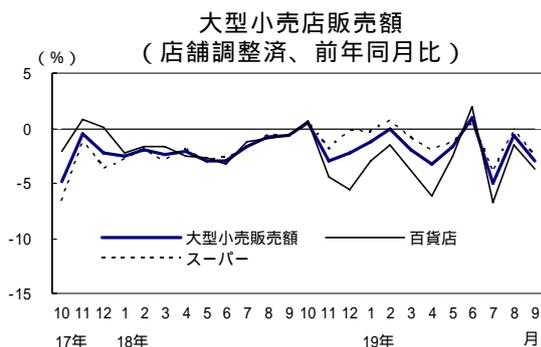
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、6月のセール前倒しの反動と気温低下による夏物商品低迷により、前年を下回った。8月は、猛暑効果により夏物商品や飲食料品が売行き好調だったが、秋物衣料の売行きが鈍かったことにより、前年を下回った。9月は、一部でセール効果がみられたが、残暑が厳しく、衣料品の売行きが振るわなかったことから、前年を下回った。

スーパーは、家庭用電気機器や飲食料品の売行きが好調だったが、衣料品や家具の売行きが不調だったため、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

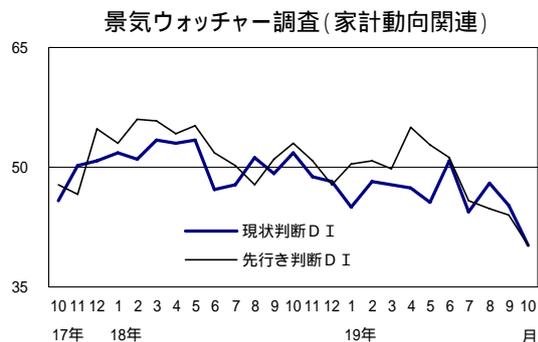
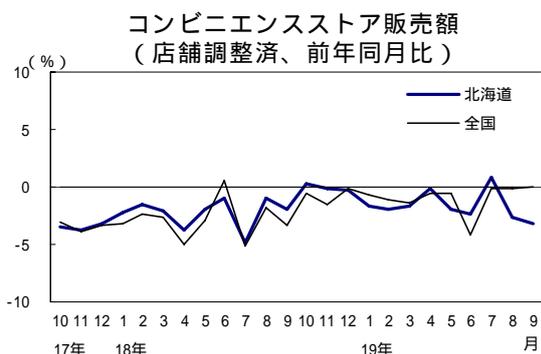
「北海道は灯油の需要期に入ったが、原油の値上がりの影響から家庭での出費が増えてきている。客との会話でも無駄は極力控えるとの話を聞く(タクシー運転手)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

	18年10-12月	19年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	1.6	1.2	1.4	2.9
百貨店	3.4	2.9	2.3	4.2
スーパー	0.6	0.3	1.0	2.3
コンビニ	0.1	1.7	1.6	1.7
景気ウォッチャー	49.5	47.0	47.9	45.9

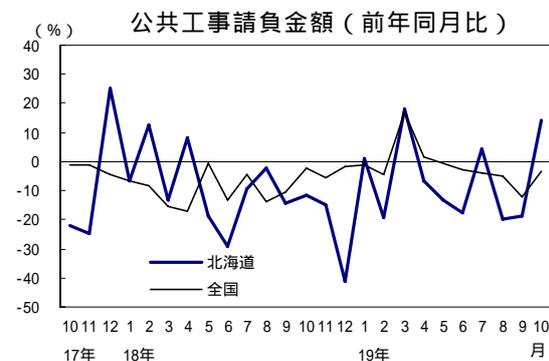
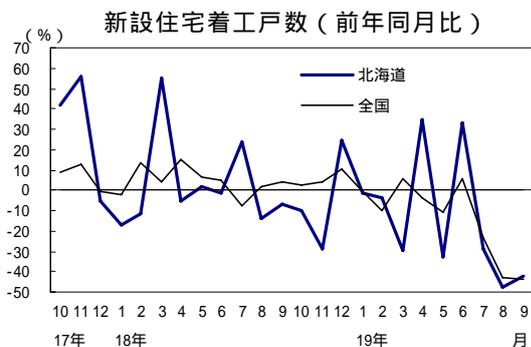
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

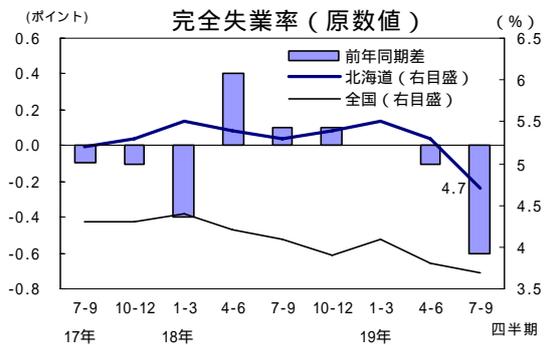
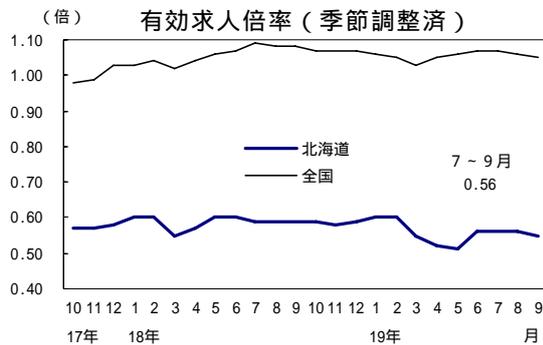
持家、貸家、分譲が下回ったことから、全体では大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



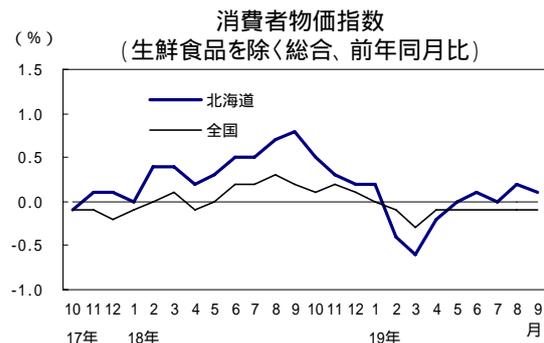
景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]

「地元企業全体ではマイナス基調にある。特に、運輸業、旅館・ホテル、ガソリンスタンド、不動産業からの求人広告が減っている（新聞社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数は増加している。
(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	（件、億円、%）				
	18年10-12月	19年1-3月	4-6月	7-9月	19年10月
倒産件数	132	159	172	138	47
（前年比）	4.3	11.2	20.3	23.2	9.6
負債総額	1,687	497	431	464	122
（前年比）	349.1	5.6	6.0	18.2	89.4



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・商店街の集客は地元大型店の集客の影響を受けるが、大型店で行われたプロ野球の優勝セールが盛り上がり欠け、商店街にもあまり効果はみられなかった。また今夏の猛暑は長期的に消費行動に影響を与えており、客の重衣料に対する反応が鈍い（商店街）

<先行き>

- ・航空運賃や燃油サーチャージ料金の価格上昇といった原油の高騰による直接的な影響に加えて、ガソリンや灯油といった様々な商品の値上げ、年金問題や消費税率引上げの機運などから、将来的な不安を感じる人が多くなる。レジャーや旅行はゆとりあつてのものであるため、それらに掛ける費用が抑えられることになる（旅行代理店）

景気ウォッチャー調査（合計）

